

こおりやま広域圏移住体験ツアー2025夏

「子育て世代向け！自然たっぷり大満喫ツアー！」

鏡石町・玉川村コース 7月26日(土)～7月27日(日)

<1日目>

郡山駅集合(9:50) → すがまプラザ交流センターにて地域の概要説明・アイスブレイク・先輩移住者のお話 → こども食堂「クックキッチンたまかわ」にて料理教室＆ランチ交流会 → 念仏踊りの練習を見学 → 東野の清流にて自然体験 → 宿泊施設へ(森の駅yodge) → 地域の方とBBQ交流会

こおりやま広域圏移住体験ツアー 夏コース最後3本目は、
郡山市から車で30-40分の位置にある、鏡石町・玉川村 で開催されました。

朝 9:50 郡山駅西口、関東地方から今回の参加者が集まり、ツアーが始まりました。
1泊2日で、今回はご家族 計3組9名 の方がツアーに参加しました。

○玉川村

すがまプラザ交流センターにて地域の概要説明・アイスブレイク・先輩移住者のお話

まず最初の行程は、閉校となった中学校をリノベーションしたすがまプラザ交流センターにてツアー参加者同士の自己紹介と地域の概要説明を行いました。玉川村の地域おこし協力隊の田中さん、塩澤さん、阿部さんからは、玉川村の紹介をしていただきました。玉川村は、福島空港があることや水郡線を使用すれば水戸まで1本でいけること等アクセスの良さを話してくれました。ほかにも、地域の人に見守られながら、文化に触れて子育てできることも魅力とのことでした。鏡石町からは、鏡石町役場の増川さんが町の魅力を紹介してくれました。郡山市や白河市へのアクセスが非常によく、車で約30分、電車(東北本線)を使用すると約20分で到着します。また、「県内、主に近隣市町村からの子育て世帯の移住者が多く、町の面積は小さいが日用品は町内で購入することができ、住みやすいところが魅力」と話してくれました。



地域の概要説明

○玉川村

こども食堂「クックキッチンたまかわ」にて料理教室 & ランチ交流会

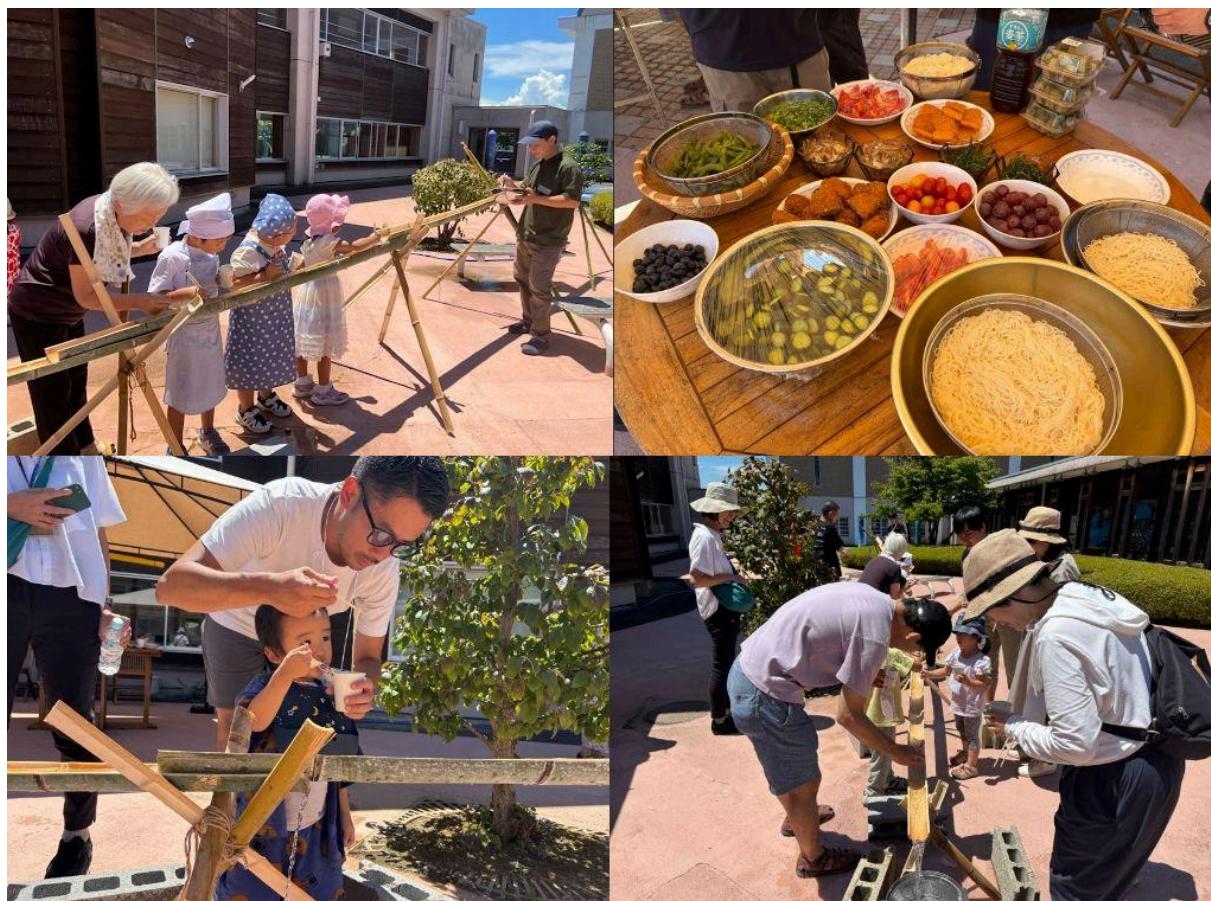
すがまプラザ交流センター内にある「こども食堂クックキッチンたまかわ」では、夏の風物詩である流しそうめんを通じて地域の人と交流しました。

玉川村地域おこし協力隊の阿部さんと塩澤さんが中心となり、本格的な竹製の流しそうめん台が設営されました。

玉川村のこどもたちを中心に、地域の子育て世代の保護者や、高校生など幅広い年代の地域の人たちと会話をしながらの流しそうめん体験。参加者は涼しげなそうめんが竹のレールを流れる様子に歓声を上げ、視覚と味覚で夏を存分に味わいました。

流しそうめんを楽しんだ後は、旧音楽室にて子育て世代の保護者から玉川村で子育てをすることの良い点や大変な点についてお話を聞きました。

ツアー参加者の方々は子育て真っ最中の方々だったこともあり、真剣に耳を傾け、積極的に質問を投げかけているのが印象的でした。



流しそうめんの様子

○玉川村
念仏踊りの練習を見学

流しそうめんを楽しんだ後は、須釜地区にある南宿集会場で福島県の重要無形文化財にも指定されている「南須釜念仏踊り」の見学をしました。

この「念仏踊り」は亡くなった親族の御靈を供養するために踊られます。

一度は戦前から戦後にかけて途絶えてしましましたが、当時の記憶を持つ方々の尽力によって再現され、現代まで受け継がれています。

当日は、玉川村の年中さんから小学校6年生までの女の子計12名が「南須釜念仏踊り」を披露してくれました。地域の方々が一体となって歌い上げる念仏歌もまた、この伝統文化の大きな魅力の一つでした。



念仏踊り見学の様子

○玉川村
東野の清流にて自然体験

「南須釜念佛踊り」の見学を終えた後は、東野の清流に向かいました。当日はうだるような暑さでしたが、東野の清流に到着するとその涼しさに暑さを忘れてしまうほどでした。

ひんやりと冷たい水が心地よく、耳を澄ませばひぐらしの鳴き声が響いており、「日本の夏」を五感で感じることができました。ここでは3つの自然体験をツアー参加者と楽しみました。1つ目はフィールドパターン探し。森の中にある、三角や丸、星型などの様々な模様(パターン)を探す体験を行い、自然をよく観察する力を磨きました。

2つ目は、地域おこし協力隊の阿部さんが事前に集めた5つの葉っぱや枝などの自然物をツアー参加者全員で1分間記憶した後、7分間の制限時間内に似たようなものを探すという体験を行いました。記憶力と観察力が試される体験でした。

3つ目は竹で作られた水鉄砲を体験しました。東野の清流の冷たい水を放ち、大人もこどもも一緒にになって童心に返って遊びました。普段体験できないような自然との触れあいを通して、地域の魅力に触れる時間となりました。



東野の清流自然体験

○玉川村
宿泊施設へ(森の駅yodge)

東野の清流で自然を満喫した後は、本日の宿泊場所「森の駅yodge」へ向かいました。「森の駅yodge」は2006年に閉校した須釜小学校旧四辻分校をリノベーションした宿泊施設です。小学校の温かい面影を残しつつもモダンに生まれ変わった空間を参加者は楽しんでいらっしゃいました。夕食は半屋外の開放的な空間で、豊かな自然に囲まれながらBBQを楽しみました。福島県産のお魚やお肉、お米など、海の幸と山の幸を贅沢に堪能。子どもたちはかつての校庭や廊下を元気いっぱいに走り回り、夜には星空を眺めっていました。一方、ツアー参加者の大人たちは玉川村地域おこし協力隊3名と鏡石町役場の増川さんと夜深くまで話に花を咲かせていました。



森の駅yodgeの様子

<2日目>

- 宿出発(9:00) → 鏡石図書館にて田んぼアートの見学
→ 岩瀬牧場の見学 → いちご農園「いちご家族」で先輩移住者のお話
→ poco a pocoにてランチ → アイシングクッキー作成体験
→ まちの駅かんかんてらすにてお買い物 → 郡山駅(16:00頃)

晴天の中、2日目がスタートしました。
朝から校庭を駆け回る元気な声が聞こえてきました。



出発前森の駅yodogeにて集合写真

○鏡石町

鏡石図書館にて田んぼアートの見学

2日目の最初に訪れたのは、鏡石図書館です。ここでは、田んぼに描かれた見事な田んぼアートを見学しました。「窓から眺める絵本～もう一つの“図書館”～」がコンセプトの鏡石の田んぼアートは平成24年から始まり、今年13年目を迎えます。今年は6色9種類の異なる稲を植え分けることで、シンデレラの姿を田んぼに描き出していました。

参加者たちは、どのようにしてこのような田んぼアートが生まれるのか、興味津々の様子でした。「着色ではなく、全て稲の品種の違いによって色づけられているのがすごいと思いました」との声も聞かれ、その技術と発想に感動していました。毎年5月頃には鏡石町で田んぼアートの田植え体験のイベントが開催されており、地域のこどもから大人まで参加する交流の場にもなっています。



鏡石町田んぼアート見学の様子

○鏡石町
岩瀬牧場の見学

鏡石町図書館で田んぼアートを見学した後は、岩瀬牧場へと足を運びました。岩瀬牧場は、日本で初めての西洋式牧場として知られています。太陽が照り付ける暑い日でしたが、広々とした敷地で参加者たちは動物たちとの触れ合いを楽しみました。中でも特に人気だったのは、動物たちへの餌やりです。ツアー参加者たちは普段はなかなか触れ合えない動物たちとの距離がぐっと縮まる貴重な時間を過ごしました。



岩瀬牧場での様子

○鏡石町

いちご農園「いちご家族」で先輩移住者のお話

岩瀬牧場で動物と触れ合った後は「いちご家族」を訪問しました。ここではおいしいいちごシェイクをいただきながら、先輩移住者で起業者の太田さんのお話を伺いました。

この「いちご家族」の訪問は、事後アンケートで最も高い評価をいただきました。

特にツアー参加者の印象に残ったのが、太田さんのリアルな移住＆起業体験談です。

ツアー参加者からは、「いい意味で、Uターン就農らしくない軽やかさと、取り繕わざリアルに話してくれる姿勢ありがとうございました。」という声が聞かれました。移住後のお仕事について不安視していた参加者も、太田さんの奥様が首都圏へ週2回出勤していると聞き、参考になったようです。移住といっても無理に周りに合わせることなく、ありのままの自分でいて、自分のしたいことをやるという太田さんの考え方には多くの参加者に新たな視点を提供し、特に印象深いものとなりました。



いちご家族での様子

○鏡石町

poco a pocoにてランチ

ランチはビストロフレンチレストラン「poco a poco」で頂きました。ここでは、鏡石町を中心に福島県産の新鮮な野菜やフルーツなどをふんだんに使ったフルコースを堪能。この日は、旬のトウモロコシを使ったメニューもあり、季節感たっぷりの地域の食の魅力を感じることができました。食事をいただいた後は、元地域おこし協力隊であるシェフの小柳拓未さん、ホール担当の比呂さんご夫妻にお話を伺いました。お二人は、地域おこし協力隊の任期中に活動の1つとして、空き店舗をリノベーションし「poco a poco」の営業を開始し、卒隊後は起業という形で引き続き「poco a poco」を経営しています。

参加者からは、「先輩移住者のお話を聞くだけではなく、実際にお料理をいただくことで実感をもって苦労ややりがいを感じることができました」という声もあがりました。



poco a poco での様子

○鏡石町

アイシングクッキー作成体験

poco a pocoでランチタイムを楽しんだ後は、鏡石町健康福祉センター「ほがらかん」に行きました。ここでは、アイシングクッキー作成体験を行いました。先生は、鏡石町で子育て真っ最中の金沢さんです。金沢さんに鏡石町の公式キャラクター「牧場のあーさー♪」に似た牛型のクッキーと鐘のクッキーを用意していただき、その上にアイシングでデコレーションしていきました。小さいお子様も一生懸命作成。体験のあとは、「ほがらかん」の施設内を見学。施設内は地域住民の交流の場として賑わっており、移住後も子育て支援センターなど、利用できる施設が多いことも特徴です。親子で協力をしながら作り上げたアイシングクッキーは鏡石町に訪れた思い出の一つになったことでしょう。



アイシングクッキー作成体験の様子

○鏡石町

まちの駅かんかんてらすにてお買い物

このツアー最後の行程は、鏡石駅に隣接している「まちの駅かんかんてらす」でのお買い物でした。鏡石町の旬のくだものや野菜、6次化商品などを販売している施設です。ツアーのお土産に鏡石町の名産品をご購入されるツアー参加者多くいらっしゃいました。



鏡石まちの駅かんかんてらす 表の様子

16時頃郡山駅に到着し、解散となりました。

このツアーがきっかけで、玉川村・鏡石町へまた美味しいものや人に会いに来て頂ければ、嬉しく思います。